

資本主義と共に去りぬ??<CO2削減80%と既成世界体制が自殺願望の状況証拠>, 09/8/15

“77(09/8/6):超資本支配の経済-科学の真相”中で既成体制は地位没落よりも全人類道ずれ自殺を選択したとしか結論できないとした。内容が過激なので更に補足する。

[0]:現実-事実は遥かに小説を超える(あるいは現世界体制の心理トリック)。

当事者sと言う者は目先眼中に必死であり、外も全体も裏側も見えない者だ。岡目八目、部外者=アウトサイダーの第三者になって初めて見える事がある。無能とか言う意味でない。誰も強制業務一つ事に集中では他に注意を向けるなどは不可能な事なのだから。

然るに現代人が圧倒的に眼中にあったは昨日(明日)までの世界経済繁栄、この甚大膨大なる大勢, 大勢, 大勢, ... それと人の大弱点である虚栄心、虚妄核心は正にここにある!!!、前代未聞、宇宙歴史規模の大間違いを前にもう引っ込みがつかないと言う自殺行為だ。

見る事は信じる事と言う。都会を見渡せば立派なビル群の出現と豪華装?いの人々の群れ、戦後焼け野原東京の腹ペコ-ボロまといの時代とは隔世、だが戦争敗れても当時は山河自然大局は立派に残った。現代は全く逆転で北極海底で今何が進行してるなどは一向に見えない、分析科学が出現以来、そして現代最大特徴は学校教育に由来する局所詳細の専門家主義、それこそ虚妄諸悪根源、これこそがわれら現代人の最大弱点。全体構造がこれで見えなくなるのだ。筆者自身も分析科学で育成された身だが、幸い孤立研究の結果、統合性修練が不可避になってしまった(要するに何でも屋)。外部からの情報流遮断となれば、最も単純な原理原点の解析検証しか仕事がない。その結果は意外や意外の連続だった!!!。以下内容全部は既に本サイトでは再々、その詳細を述べたので再度参照されたし。

[1]自然世界の時間変化はミクロ詳細では不連続、実は巨視系でも不連続変化がある。過冷却水は目前で力学衝撃で一瞬に氷に変化する。ルネトムのカタストロフィ論。

[2]会計論における0サム定理: $0 = \text{通貨資産総額} - \text{負債総額}$ 。なぜ教科書にない?????

[3]0は常識としての無、だが自然数の逆数列: $1, 1/2, 1/3, 1/4, \dots, 1/N, \dots, \dots$ 、最終の行き先Zは $0 = 1/\text{無限}$ 、最小数Zがもし0でないと $1/Z = M < M+1, \dots$ とより大きい数があるから。然るに最大数=無限は確定する数でない、となれば実数Zも非決定数。

*実験観測で矛盾を見ない標準理論の素粒子大きさは実数0、無にして無でない、湯川先生は大きさのある素粒子論を試みたが、... 標準理論でも縦波成分(静電気)は数珠つなぎ、

[4]無から生まれる宇宙:物質以前世界は物理法則すらも無、だから全知全能者の万能世界。一度物質発生があると肯定否定同時実現不可能性=無矛盾性(因果律)から数学法則化。

無=真空世界は全知全能者、靈魂の万能世界。無から生まれる宇宙はコラーンも指摘。

0 = 総物質正エネルギー - 総重力場負エネルギー。この原理が縦波電界波発電、教科書にない、

[5]真空世界と現世人はB波(±電荷双極子縦波波動)で情報結合、超能力予言のメカニズム、宗教予言等メカニズムには科学的根拠があるという従来既成科学の大逆転!!!!,

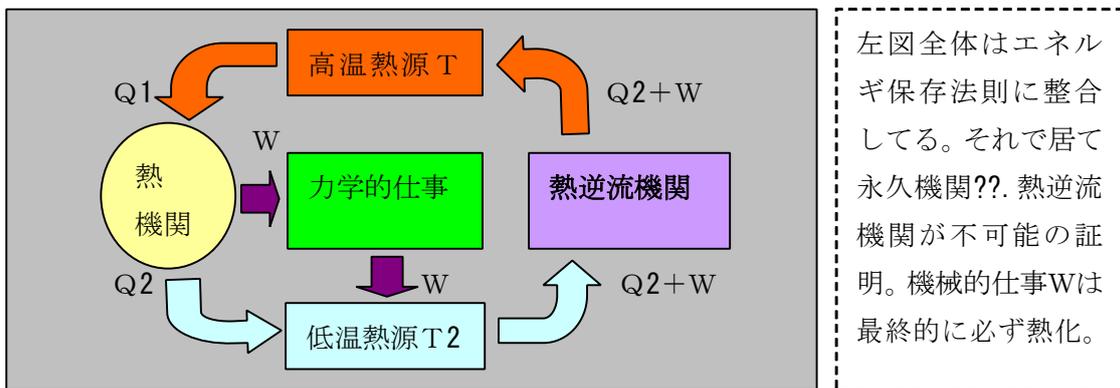
[1]: 資本主義と科学真相弾圧(宗教擬似弾圧)。

以下に一連の筆者自身の経験事実からの指摘をする。だが言及内容が偽でなければ 筆者身分上に一切無関係である内容(真理)になる事に留意をお願いする。

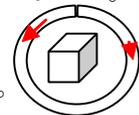
①化学物質系一般の**不可逆性**と地球資源環境-気候変動問題の背景歴史回顧。

(1)熱力学的な不可逆性(熱力学第二法則):

閉じ込め物質系は如何なる内容物であれ、時間経過で内部化学反応は停止して、以後は巨視的に見てなんら変化が起こらない(熱平衡状態)。化学反応は最終平衡状態を目指した方向のみに進行してその逆は起こらない(不可逆性)。閉じ込めるとは物質内外交換流も熱流も一切遮断する理想魔法瓶の中。と言う事は閉鎖系平衡状態では、もちろん内部の分子活動は活発にあり衝突反応も頻発してるが、その巨視的の反応結果は反応前後で同一になる。熱的に見て、どの部分も温度が等しい。熱は高温箇所から流れ出て低温箇所に向かう。その逆は起こらない(不可逆性)。もしこれ(熱逆流機関)が実現すると熱永久機関が作れる。



「閉鎖系での熱化学反応は最終平衡状態を目指した方向のみに進行し、その逆は起こらない(不可逆性)」。19世紀熱力学創始以来、周知の大法則、だが20世紀初頭に開発された原始分子のマイクロ世界力学=量子力学をもってしても従来は不可逆性詳細が不明だった。なぜならば**原始分子の力学方程式は時間可逆との誤解**が長くあったからだ。第二法則は従来より多数賢哲の議論が多く、世界は**熱死**の方向にあるというのが昔に話題になった。



(2)山の手線の到着駅切符をサイコロ出目で決めると簡単に始発駅に戻れない。

そもそも始発駅から最初行先駅すら不明だ、実はマイクロ世界では運動方程式の解が因果律的だと、何と時間発展がない定常系に限られる。なれば論理として時間発展するには非因果=確率的でなければならない。最善努力にしても**情報欠損**があると言う事だ。だが一般には統計理論で物質研究には困らない。だが流れが速度が違う層が隣接する**流体力学**では**面摩擦力**が重要な相互力伝達要素、摩擦力は分子マイクロ確率的衝突反応。その結果、流体方程式での長期気象予測は困難になる一因(**カオス性要因**)。

(3) 不可逆性問題真相に御用学会も産業界も隠れて大反抗した !!!

ミクロ世界の時間発展は確率的分岐と言う論は数学が言い出したので筆者意見でない。にも関わらず、国内外学会は筆者論文を非公刊にした。問題はそれだけで済まなかった。以上仕事は 1988 ^ 1990 年前後にほぼ体系として完成された。未公開にも関わらず、筆者周辺では異常に不可逆性をなじる動向が起きた。20 年前だが、既に過度工業化反動としての**環境汚染問題、地球温暖化**と言うキャンペーン運動が世界規模に始まっていた。それ以前の 1970 年代には『**成長への制限**』=ローマ報告での警告が発せられてる。

(4) NTT がプリゴジン博士を前面に不可逆性をなじる大キャンペーン！

1990 年に優良企業 NTT が TV, 電車吊るし広告までにノーベル賞学者イリヤプリゴジン博士写真を横に不可逆性をなじる大キャンペーン、確かに流れのある**開放系**では秩序形成が起こると言う事はなんら間違いにない内容。だが当時既に**二酸化炭素**が地球冷却放射熱を一時捕獲、後に地球に逆放射する**温暖化メカニズム**は知られてた。と言う事は空中炭素は地球を**閉鎖系熱死方向**に導いてる事実は間違い無かった。また当時筆者は就業にも困難での貧困、移動には自転車を用、ついではやたら**空気汚染路上排ガス車列**が目立つよになり、裏街道に逃避するとチャント待ち伏せ車も用意と言う組織活動が顕在化した(禁煙者でも肺癌)。口頭日本語で反論するのではなく、尻穴言語で反抗と云う訳だ。筆者がかって政治弾圧された米 Hewlett-Packard 車も自社広告をあの最速レース自動車にも掲示、筆者の学会参入を嫌った勢力である。創業者一名はニクソン政権下で国防副次官をしたと云うから米右翼傘下。筆者は外人口頭接触は当時から今まで稀なのだが、思い起こせば取り分けドイツ系米人が多い事だ。

② 炭素排出 0 の発電技術を、何で弾圧するのだ !!!!!

1995 年前後に筆者は量子重力と言う物質会最終問題に関与、そこでは以下は既知事実。宇宙全体会計では以下のエネルギー保存則成立、だから宇宙は**無**から生まれた。

0 = 物質正エネルギー - 重力場負エネルギー。

「ホーキング、宇宙を語る、早川書房」でも指摘されてる。当時電総研技術者猪又氏から無から電力創始の N マシンなる発電機の話を押聴、当初エネルギー保存則違反と否定したが後に転向、縦波電位波発電の理論実験開発を主業とした。現代交流発電始祖 N テスラに由来する仕事で、彼は 20 世紀初頭に実用化挑戦、だが当時の米エネルギー業界と官憲圧力で抑圧隠蔽されたと云う。筆者は標準電磁量子力学を主に理論開発、粗雑な材料工作でぎりぎりながらも肯定的実験結果を得てる。これらは既に当サイトでは公開済みである。

<http://www.geocities.jp/sqkh5981g/Bwavegen.pdf>

③京都議定書のデタラメさ!!:

然るに今、気候変動危機は世界各地で顕著化、先日ラクイア G8 では **80%以上削減認識**の表明、最近は各方面で非化石エネ開発が奨励されてる、だが**炭素排出0の発電技術を、**何でひた隠しに弾圧するのだろうか!!!!。全世界協定の1997年京都議定書5%削減量など到底、80%以上削減量からすれば単純な間違いで済む内容で到底ないのだ!!。

④宗教と超能力予言:

意思決定の論理, [2], [3]章参照。

<http://www.geocities.jp/sqkh5981g/decisionmaking2.pdf>

従来の科学と云えば、宗教的な話や超能力、超常現象と云う議論とは相反関係にあった。然るに宗教は連帯と節制を、物質科学技術は競争と貪欲を奨励する意味でも相反、然るに餡配りの後者が現代を大規模支配し、前者は主流派でない。

だがここに2013年北極圏氷層全面融解可能性と、その海底下の大規模埋蔵温度爆弾の破滅危機が目前の懸念(証明は無い)、だが筆者は{**地球科学見地と並行して、超能力予言メカニズムに信憑性を於く視点**}からも、各種予言複数に当たった事で現状趨勢での**人類破滅を実感してる。**予言で問題視される事はわれ等意思での**未来変更可能性、**これは理論(標本確率過程の矛盾量である0確率性)からも、Jucelino氏も実経験で強調する如く、然りである!!。

⑤現代世界を支配してるのはロックフェラー米軍産CIA複合体:

<http://www.geocities.jp/sqkh5981g/German-destiniy.pdf>

要するに現代米国とその手下日本が世界潰しに働いてる事になる。われ等は共犯、現状趨勢では!、だから、.....

⑥上記の①②③④⑤事実を統合すれば現代世界支配者は全人類を道ずれ自殺の結論:

皆が不況で明日の生活に必死は当然で、景気回復と言われれば救済に聞こえるだろう、だが80%以上削減は尋常でない事ぐらい素人でも察する。つまり現使用量20%以下の化石燃料使用しか出来ない。理由は**自然吸収能力低下の一方、自発自然放出が増大して等価的に吸収力減退が進行してるからだ。**温度上昇を放置すれば一層自然吸収は減退一途、**空中炭素の強制引き抜きを意図しないと追いつかない。**だから本当真相はもはや経済などでない、命第一なのに、支配層地位拘泥で宇宙歴史的な大規模間違いが訂正できないのだ。然るにまじかの**2013年北極全面融解**の可能性、その浅瀬海底には400~1000GtCの数度の余裕しかない大量温度不安定爆弾=メタンクラスレートが埋蔵、10GtC融解は全球1°C上昇で融解加速に作用の正帰還で破滅的、既にロシア北部沿岸ではMtC級融解が開始、然るにこれら真相は**現代支配層の意図で一般世間には隠蔽されてるのだ。**となれば彼らは全人類巻き込みでの自殺志願としか結論がない。

緊急補足 1 : 14 日 21 時、齊藤環境大臣、急遽 80%削減策対応を声明、だが疑問だらけ!!

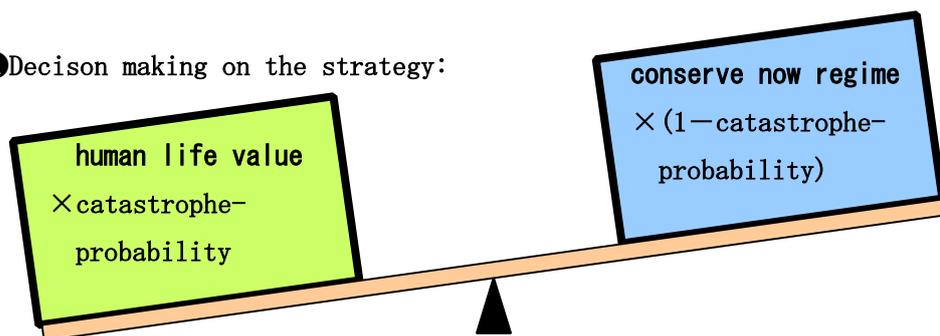
<温室ガス>全車エコカー化などで80%減可能/環境省試案.

<http://www.env.go.jp/earth/info/80vision/vision.pdf>

-疑問点-

- (1)エコカーなどは無、**何処から電力を?**、既存の電車, 路面電車は究極効率、ブレーキを踏けると発電して電力を戻せます。確かに電動モータは超効率、
- (2)総エネ4割削減となれば長距離トラック、船舶航空機、大電力工場等は無理、
- (3)太陽光は**お天気次第**、気温上昇趨勢では雨天悪天候が増える、
- (4)**バイオ燃料**は食料価格高騰にもなり、しかも炭素吸収では逆と言う悪評指摘も、
- (5)総じて構造転換だが、**その構造転換生産-其の物に大量炭素を必要**とする。
- (6)最致命的は**2050年**と言うとんだ設定、以下で論じるが今や**2013年北極海氷層全面融解と続行するメタン大崩壊**が取りざた指摘されてる時代においては、殆ど絶望的な試案。
- (7)2009年ラクイアG8限定認識だが**80%以上削減**での合意、1997年**京都議定書5%%削減**を信じてた素人はギャップに仰天、当面の世情混乱を收拾措置としてもっともらし政府案提示が急遽用意されたと言う一面が否定しがたい<筆者も詳細技術は不詳>。
- (8)公明党齊藤環境大臣は(6)**メタン問題**専門家である同じ公明党議員氏と合議がないのだろうか、環境省PDF文章1P目の全体認識において重大欠落であり、この認識のない議論は殆ど無意味と思われる。全球温度を2度に抑えるために温室効果ガスの安定化濃度を445ppm~490ppm(現状385ppm)と**する必要**があり等はまさに自殺目標としか言いようがない。全球温度は今の0.8度で北極融解、2度は既に**正帰還自爆進行中**になります。
- (9)本年12月、コペンハゲンで**世界気候変動会議COP15**開催予定、この国際会議が人類命運決定の最終会合になるのではと懸念します。

① Decision making on the strategy:



② <http://www.geocities.jp/sqkh5981g/OPERATION-GLOBAL-RAMADAN.pdf>

It's a presentation for **global rationing economy** in long years to accomplish **CO2 concentration down to 350ppm from 385ppm now.**

付録2:炭素会計の実態 :

自然放出炭素量を2倍勘定にして**空中炭素の強制引き抜きをやる!!**

(陸上+海洋)自然吸収=自然自発放出+人為放出、
 の均衡で空中炭素増大は一見引き止められるに見えるが、海洋温度の長期持続性で
 温度は即座に下がらず、自然増帰還が起こるだろう。それを強制停止するには能動的に
 余分の炭素引き抜き量(自然自発放出量同等)を削減量に加算する。現状趨勢は海洋の
 温度上昇による吸収量低下が各地研究者から指摘されてる。自然自体が弱体化してるのだ。
 更に北極圏域のメタン増大傾向に歯止めがかかってない事は致命傷の可能性をはらむ。
 <付録 3, 4, 5 参照>。イタリアラクイア G8 会合ではわざわざ**80%以上**の言い方をしてるから
 実態の吸収能力低下と自発放出悪化が進行してる旨を**科学者から進言**されたのだろう。

<http://www.globalcarbonproject.org/global/pdf/GCP_CarbonBudget_2007.pdf> (p19).

+人為放出	=7.5PgC/y	100	ME=7.5(153)
+自然自発放出	=1.5PgC/y.	20	NE=1.5(31)
-海洋吸収	=2.3PgC/y	31	
-陸生吸収	=2.6PgC/y	35	sink total=4.9(100)
+年間大気蓄積量	=4.2PgC/y	56	AA=4.2(86)

*Target reduction rate : $4.2\text{PgC/y} + 1.5\text{PgC/y} \rightarrow 5.7/7.5 = 76\%$.

(AA) (NE) ←正帰還停止強制引き抜き

*使用可能化石燃料 : $7.5 - 5.7 = 1.8$ 。

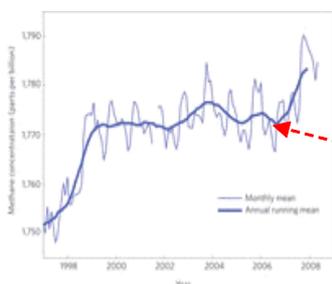
* 総吸収-総放出 = $4.9 - (1.5 + 1.8) = 1.6 \downarrow$ (空中炭素引き抜き量)。

P=10¹⁵. C is carbon standard. (For example)

CH₄=16g, but C=12g. CO₂=44g, but C=12g.

付録3: Unexpected rise in global methane levels<2007年後大気中メタン濃度急増>

<http://www.nature.com/climate/2009/0904/full/climate.2009.24.html>



The average atmospheric concentration of methane shot up suddenly in 2007, having remained stable for a decade. Data shown are from the Advanced Global Atmospheric Gases Experiment and the Australian Commonwealth Scientific and Industrial Research Organisation, courtesy of Matt Rigby. [Full figure and legend \(21 KB\)](#)

* 季節的に 20ppb の跳ね上がりが見える。これは 40MtC の重量、ちなみに 10GtC 増大は 全球約 1°C 上昇で破滅基準、現状趨勢では今後 100MtC=0, 1GtC 水準融解が起こるだろう。「何時は判らない、だが何時、大規模破滅が起きてもおかしくない」、ロシア北部沿岸のメタン噴出現場を観測する科学者証言、<M=10⁶, G=10⁹, C=純炭量素換算の意味>

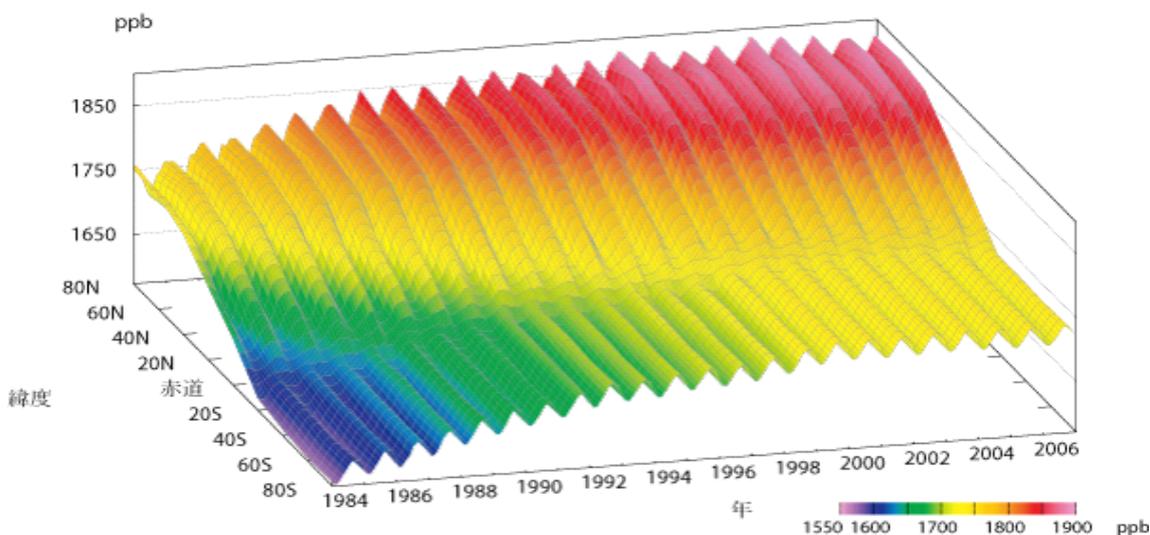
* <http://www.spiegel.de/international/world/0,1518,547976,00.html>

P49. CONCLUSIONの漫画は破滅と救済を一発で全要約してます。

* http://www.cdf.u-3mrs.fr/~henry/presentations/hydrates_paris6.ppt

付録4: 1990年以降、”北極圏域”から湧出増大するメタン。

* <http://www.data.kishou.go.jp/obs-env/ghghp/22ch4.html>

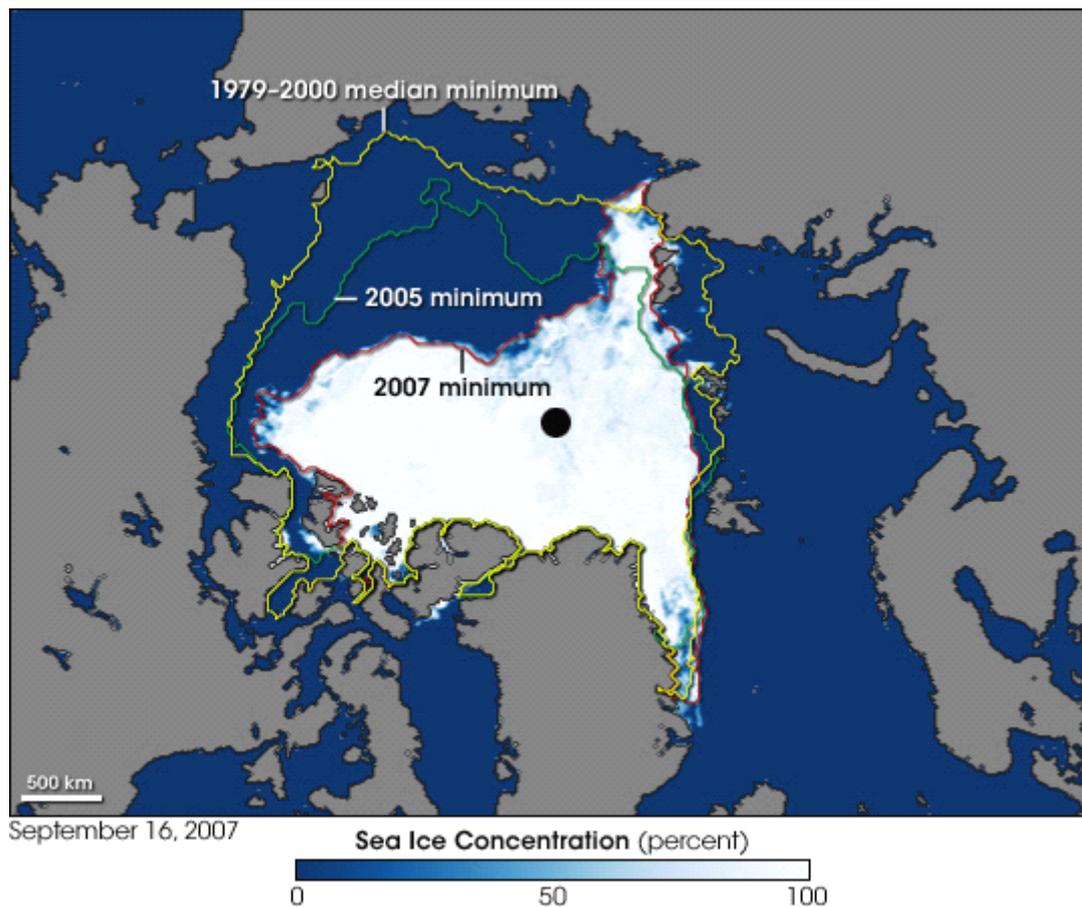


付録5:北極海は大規模浅瀬の**有機物大量沈殿**の大陸棚構造：
水深 200~300m だと海底への熱伝播にさして時間が要らない。

<http://www.jamstec.go.jp/arctic/mapsearch/locationdepth.htm>

付録6:北極海 **2013年**全面融解論の報告。

<http://www.beyondzeroemissions.org/2008/03/24/Dr-Wieslaw-Maslowski-ice-free-summer-arctic-2013-or-sooner-loss-of-reflectivity-non-linear>



付録7:世界最大熱貯蔵庫の太平洋流入ベーリング海峡。

<http://www2.kaiyodai.ac.jp/~koji/BE.pdf>

* <http://www.jamstec.go.jp/iorgc/topics/20060607/index2.html>

ベーリング海峡に水門設置で氷層融解が一時逃れが出来る可能性、工事可能性と海洋気候反動計算がまずわからない。ちなみに英語圏でベーリング海流影響を論じたサイトは皆無。

